

## 平成 20 年度第 4 回化学教育 FD/IT 活用研究委員会議事録

- I. 日時： 2009 年 3 月 16 日(月)午後 3:00~5:00
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席：及川副委員長、伊藤委員、幅田委員、堀合委員  
井端事務局長、森下、恩田

### IV. 討事項

以下の項目について検討した。

- 0. 高野委員長の委員退任により、新委員長を伊藤委員にお願いすることになった。
- 1. 「学士力」についての中間報告の詳細と、その後の流れについての経緯の説明が事務局よりなされた。
  - 文部科学省は [学士力] についての検討を学術会議に付託したが、私情協としては、IT を活用して学士力を高める教育を目指し、[分野別学士力] 考察の中間報告(お願い) を 2 4 分野についてまとめ、文部科学省に届けた。
  - その内容は、あくまでの専門教養教育であり、資格試験を意識しておらず教育現場の声と教員を通してであるが社会の声を反映することを考慮したことを伝えた。  
今回の報告は、あくまでも中間報告であり、平成 21 年 12 月に詳細 (コアカリキュラム・到達目標・水準を決めて) 最終報告を届けすることとした。
  - 学術会議における [学士力] についての進捗状況は、
    - 1. **具体的な質保証枠組みを検討する分科会では**  
英国 QAA の資料を参考に検討を行い、一部ではあるが具体的な答申が平成 20 年 12 月 24 日に出ている。参考にした英国 QAA の内容としては、
      - イ 身に付けるべき知識・能力・スキルを定義
      - ロ 教授・学習・および評価を確立(その実現手段としての)
      - ハ 到達すべき水準を定める。上記の枠組みについての検討が分科会行われている状況である。
    - 2. **教養教育／共通教育に関する問題を検討する分科会では**  
学生層の変化を踏まえ専門教育と相補うかたちの、教養教育／共通教育の具体的内容が検討されている。
      - イ 基礎教育・導入教育
      - ロ 求められる市民的素養
      - ハ 専門分野以外の異分野を相対化して考えられる視点 等

### 3. 大学と職業との接続に関する問題を検討する分科会では

就職活動に象徴される、大学教育と職業選択との間に存在する本質的諸問題を検討し検証する

イ 大学側で改善すること

- ・ キャリア教育の位置づけ・教育方法など
- ・ 教育課程の編成の在り方や学部や学科の別け方など

ロ 企業や政府に対する問題提起と要請の検討など

学術会議としては、上記の分科会今年の5月頃には最終的なとりまとめを行う予定である。

- 上記のことを考慮して、私情協としてはこれまで各分野で検討した、中間報告を今後最終報告としてまとめ、今年の12月頃には提出したい。
- 学術会議と連携をはかりながら教育現場の意見を反映できるようにしていきたい、そのため、各分野において検討を進めたい。

今後の本委員会活動の参考にするため、「学士過程教育の構築に向けて」（答申）の内容について確認をおこなった。

### 2. 今後の検討スケジュールについて

- 今後は最終報告をまとめるにあたって、英国のQAA版の分析をおこなって、ネット上でこの情報について全教員が共有できるようにして、意見交換を行い参考にして行く事にしたい。
- 最終結論の内容は、方向性を提示できるように準備する。

### 3. その他

- 今後の委員会は、4～5月は、ネットを通して検討しながら準備し6月に開催する。